

トロント国際映画祭を沸かせた【麗しの幻想譚】が日本凱旋上映！



「人間 -Ningen-」

第38回トロント国際映画祭入選作品

トルコ+フランス+中国+日本による奇跡的な出会いが紡いだ、
異色のファンタジック・ヒューマン・ラブ・ストーリーが遂にその全貌を明かす！

【作品概要】

トロント国際映画祭(Toronto International Film Festival)は、1976年に創設された、約40万人の観客動員を誇る映画祭であり、アカデミー賞につながる映画祭として、業界でもとくに重要視されている。2013年度は、80ヶ国から2,588社、延べ4,743人の映画業界関係者が参加し、期間中に32作品がワールドワイドでの配給契約が成立した。

今年同映画祭に全世界から応募された作品数は実に約4,000本、この応募作品多数の狭き門をくぐり入選を果たした映画のうち、日本映画は6本。入選作品は是枝裕和監督「そして父になる」、宮崎駿監督「風立ちぬ」、松本人志監督「R100」など錚々たる顔ぶれであったが、これらの作品に肩を並べ「人間 -Ningen-」という作品が入選していることを知る人は少ない。実はこの作品、2013年トロント映画祭において、監督と主要撮影スタッフ以外、役者を含めて全て一般の人々による製作にして入選という快挙を、日本作品の中では唯一成し遂げた極めて「異質」な作品である。

監督はカンヌ国際映画祭入選などの華々しい経験を持つトルコ&フランス出身の男女ペア、チャーラ&ギョーム。主演を務めたのは中小企業の現役経営者・吉野真弘(66歳)である。

監督たちと吉野の出会いは、日本で開催されたある映画祭の授賞式だった。「異文化」をテーマに映画を撮り続けているチャーラ&ギョームは日本文化に強く魅せられ、その後京都に長く滞在することになる。やがて監督たちは演劇に深い造詣を持つ吉野に興味を持ち、長編映画製作の話を持ちかけた。少額出資者として参加するつもりだった吉野に伝えられたのは主演という大舞台、戸惑いながらも承諾した吉野をはじめ、演技経験もない社員やサンバチーム、現役の狩人といった異色のキャストによる本作が誕生した。

関係者を中心に上映会を行ったところ、その映像の美しさと独創的な世界観を称賛する声が寄せられ、背中を押される形で国際映画祭への出品を決意。数か月後に届けられたのは、誰もが耳を疑うトロント国際映画祭入選だった。トロントでのワールドプレミア上映は毎回ほぼ満席となり、質疑応答では会場から口々に熱心な質問が寄せられる。「人生は2度と来ない」を座右の銘にする吉野が、まさに2度とは巡り合うことのない経験をした瞬間であった。

日本に古くから伝わる物語と現代日本の中小企業経営者という「異質」なものとの出会い。それをトルコ&フランス出身の監督の視点で描くことにより生まれた、ドキュメンタリーでもない、完全にフィクションとも言い切れない空気感。トロント国際映画祭を沸かせた「麗しの幻想譚」が11月2日(土)から東京・渋谷で、1週間限定の凱旋上映を行う。

【ストーリー】

狸と狐の化かし合い。男に化けた狸と女に化けた狐が街に出て行くところから物語は始まる。時はあっという間に過ぎ、主人公である吉野に化けた狸は結婚し、中小企業を経営していたが、女に化けた狐はどこへ行ったのか？やがて自身の会社が経営不振となり、心も体も弱り果ててしまった吉野は、療養所でひとりの女性と出会う。取り戻した穏やかな日々、旧友との再会と別れ。そこでふと目にした狐と狸のおとぎ話が自分の人生に重なっていると気づいた時、彼の中で何かが目覚める。本当に求めていた“彼女”= 狐を探して吉野は旅に出る—

【コメント】

- 共同監督として活動しているギヨーム・ジョヴァネッティとチャーラ・ゼンジルジは、京都に潜む伝統的な物語や文化に深く寄り添い、そこにファンタジーとアレゴリー(寓意)を見事に融合させた。あふれんばかりに配慮されたディテールによって、この作品にはコメディ的な驚きが詰まっている。様々な神話や伝説から紡ぎ出された要素が、Ningenを一つの良く出来た文学作品としつつ、更に不条理喜劇と童話的な世界観を合わせる事で、抜け目の無い巧妙な訓戒的な物語として仕上がっている。

キャメロン・ベイリー (トロント国際映画祭アート・ディレクター)

- 古事記とケータイ小説が、八百万の神々と巷に溢れるキャラクターたちが歴史を飛び越えて繋がってしまう物語への欲望が日本にあることを監督たちは感じとった。それを観て、そういう国に自分が生きているんだということを私は再認識することができた。

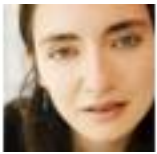
土屋豊(映画監督)

【広報用画像】

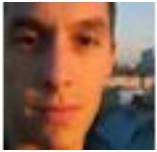




【監督プロフィール】



チャーラ・ゼンジルジ、(アンカラ、1976年生まれ)



ギョーム・ジョヴァネッティ(リヨン、1978年生まれ)

チャーラ・ゼンジルジは、外交官の娘として生まれ、将来はトルコ初の女性大統領となることを親から期待されていたが、重圧から逃れるように家を出、フランス大使館にて職を見つけた際に、偶然インターンとして来ていた工科大出身のギョーム・ジョヴァネッティと出会い、恋に落ちる。そこから2人は、突然映画をつくることを決意し、中東から中央アジアにかけて、主にドキュメンタリーとフィクションの監督として数々の短編作品を手がけ、これまでに100以上の国際映画祭にて、入選・受賞している。彼らは、異文化を理解したいという純粋で確固たる信念の元に活動を続けており、プロの役者は使わず、実際に出会った一般人からインスピレーションを受け、物語を紡いで行く演出手法を守り続けている。

2011年、2人は初の長編作品としてパキスタンを駆けるロード・ムービー「Noor」を製作。この作品は2012年のカンヌ国際映画祭独立部門ACIDにて入選、ワールド・プレミアされ、その後、チェコのカルロヴィバリ国際映画祭、釜山国産映画祭など多数の映画祭に入選している。

本作品「人間 -Ningen-」は、2本目の長編作品として、第38回トロント国際映画祭にてワールド・プレミアを迎えた。

【キャスト・プロフィール】

- ・吉野真弘：メディア総合研究所代表取締役。趣味は読書。小説を書くことを「人生のゴール」に定めている。宮崎市出身。66歳。
 - ・李小牧(リー・シャム)：日本のガイド、および、作家、ジャーナリスト、中国・湖南の料理を扱うレストラン『湖南菜館』店主。“歌舞伎町案内人”の異名で知られる。
 - ・和島政子：吉野真弘の妻。
 - ・鮎川めぐみ：作詞家、訳詞家。手話による自作詩の朗読も手がける。
- 高橋真梨子、夏川りみ、パクヨンハ、鈴木雅之、中森明菜ら、数多くのアーティストに作品を提供。大竹しのぶのコンサートでは、長年作詞・訳詞を担当。
- ・佳卓：鹿児島県出身の舞踊家。本名・宮北佳卓。堀越高等学校卒業。1999年、創作新日本舞踊佳卓流を創流。
 - ・千松信也：京都在住の猟師。鉄砲を使わない「わな猟」という伝統的手法でシカやイノシシを捕獲し、解体や加工も自身で行うという「自分で食べる肉は自分で捕る」式の生活をしている。
 - ・メグ&カメ：サンバチーム G.R.E.S ALEGRIAダンサー

【クレジット】

監督:チャーラ・ゼンジルジ(トルコ)、ギョーム・ジョヴァネッティ(フランス)

出演:吉野真弘、李小牧、和島政子、鮎川めぐみ、佳卓、千松信也、ほか

撮影:角田真一 録音:鈴木昭彦 ライン・プロデューサー:田中深雪

プロデューサー:谷元浩之 製作総指揮:吉野真弘

製作:株式会社メディア総合研究所

協賛:三井住友銀行

2013年／日本=トルコ／104分／日本語、中国語／カラー／DCP、Blu-ray

【配給・宣伝の連絡先】

配給+宣伝:メディア総合研究所(担当:田中/谷元:03-5414-6533 / 050-3797-1440)

E-Mail : ningen@mediasoken.jp

URL : <http://www.mediasoken.jp/ningen/>

公式Twitter : @ningen_movie

《11月2日(土)より、オーデトリウム渋谷にて1週間限定先行上映!》

劇場URL: <http://a-shibuya.jp/archives/7879>

場所: オーデトリウム渋谷

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 2F

TEL. 03-6809-0538

上映期間(1日2回上映):

11月2日(土)・3日(日) 11:00~ & 18:00~

11月4日(月/祝)~8日(金) 12:40~ & 18:30~

特別鑑賞券=1200円(11月1日まで劇場窓口での販売)

当日券: 一般=1500円/学生=1300円/シニア=1200円/高校生=800円/

中学生以下=500円 整理番号制/自由席